

キャラクター名
又度 夏梅

プレイヤー名

シンドローム	バロール キュマイラ		ワークス	FHエージェントA	カヴァー	FHエージェント
	オプション		年齢	16歳	性別	男
覚醒	憤怒	衝動	妄想	初期侵食率	43 %	
出自	99：犯罪者の子	経験	40：喪失	邂逅	06：勝利	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	67
肉体	3	1	0	3		7	行動値	4
感覚	1		0			1	(非装備時)	4
精神	2		0			2	戦闘移動	9
社会	2		0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：FH	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
"ウルカヌス"	白兵	7r+4	1	7		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
情報収集チーム	
デモンズシード	
フロズンリリー	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
遺産の器	P	N		
強羅瑠璃	P 連帯感	N 疎外感		
わらび	P 連帯感	N 不安		
遺産"ウルカヌス"	P 執着	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P: 11

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
グラビティテリトリー	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	最大HP+(Lv*7)、侵蝕率基本値+4							
巨人の生命	2	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	最大HP+(Lv*5)、侵蝕率基本値+3							
紡ぎの魔眼	3	1	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	判定ダイス+Lv個、ラウンド1回							
フルパワーアタック	4	4+1	セットアップ	至近	自身	自動	80↑	
効果：	ラウンド間白兵攻撃力+(Lv*5)、【行動値】0							
コンセントレイト：キュマイラ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	C値-Lv							
パワースイング	3	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：	攻撃力+(Lv*3)、判定ダイス-1個、素手不可							
変貌の果て	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	オーヴァードになる以前と見た目が違う							
偏差把握	1	-	メジャー	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果：	周囲のものの動きを把握する							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

UGN遺産管理局特殊部隊"ナイトフォール"。
そこが夏梅の古巣だ。
12歳でオーヴァードとして覚醒し、チルドレンとしてUGNで育つも、能力がうまく扱えず、落ちこぼれの烙印を押された。
以来、UGNから出る勇気もなく無気力に過ごしていたが、ある日突然に強羅瑠璃が現れ、夏梅の手を引き車に乗せ高層ビルへと連れ出す。
困惑する夏梅に瑠璃は"ナイトフォール"への加入を勧めた。
唯一人並み以上に出来ていた探知能力を買っての事だと説明されたが、よく理解は出来なかった。
それでも、誰からも必要とされた事がない夏梅は嬉々として引き受けた。

-"ナイトフォール"としての初任務の日。
後方支援担当の夏梅は、周辺の様子を探り瑠璃達に連絡する役割を担っていた。
瑠璃達を送り出し、作戦は順調に進んでいた。
:
瑠璃達が遺産を回収し、本部に帰還を始めた事を確認した夏梅は、初任務の終了に胸を撫で下ろしかけた。…まだ、終わっていなかった。
夏梅は自身のいる作戦本部がジャームに包囲されつつある事に気付く。
だが問題ないはずだ。瑠璃達はすぐそこ。念の為緊急信号も上げた。みんなが助けに来てくれる…はずなのに、何故？
徐々に増すジャームの勢力、遠ざかる瑠璃達。
遺産の回収が成った今、自分は必要ないという事か。
-死にたくない。
魔眼が脈打つ。感じた事のない何かへの執念。
腕が黒く染まる。無意識に警棒を掴むと、ジャームの群勢に殴りかかっていた。
後から知るに、キュマイラシンドロームを発現させたのはこの時らしい。